



永山西小だより

今年度の重点教育目標

『自他のよさを認め、相手意識をもった言動ができる西っ子の育成』

令和7年12月25日発行

冬休みに向けて

本日をもって2学期が終了いたしました。2学期は新校舎からのスタートでした。子どもたちは、もうすっかり新校舎に慣れ、教室前の多目的スペースで「大根抜き」や「おしくらまんじゅう」等空間を利用して遊んでいます。一時期、インフルエンザ罹患者が増えましたが、学年・学級閉鎖を実施することなく、子どもたちは元気に学校生活を過ごすことができました。このように元気に学期末を迎えることができましたのは、保護者の皆様の御協力のおかげと、心より感謝申し上げます。明日からの冬休みは20日間となります。年末年始を挟みますので、運動不足や寝不足になることが考えられます。どうか体調を崩しませんよう元気にお過ごしください。



さて、12月に実施しました児童・保護者アンケートへの御協力大変ありがとうございました。結果・分析等の詳細は後ほどお知らせいたします。その中で、特に気になった項目があり、先出しでお話しさせていただきます。それは、「**ゲーム・SNS・動画視聴時間**」に係る内容です。「あなたはおうちでゲームやスマホ、タブレットなどを時間やルールを守っていますか」の肯定的回答において**保護者と児童で37.2%**

もの差がありました。児童は「守っている」という意識が高く、保護者は「守られていない」と感じているということになります。

北海道警察本部生活安全部少年課によりますと、性的被害少年少女は前年より増加し、また自画撮り被害においてもSNS等が起因するものがほとんどだそうです。またLINEでのトラブルやスマホ依存、課金等の問題も低年齢化しているそうです。スマホ等を「持たせない・使わせない」「持たせる・使わせる」の二極化した考えではなく、「どのように利用するか」、親子で真剣に向き合うことが重要だと感じています。

11月に「子どもがよりよくたのしくSNSを活用するためには」をテーマに、旭川市PTA連合会新永ブロック研修会が実施されました。その中で講師の松井丈夫様は、「**過度にSNSを恐れず、放任せず親子で情報を共有しながら一緒に楽しむことが大切**」だとお話されていました。「家庭でのルールは、親が勝手に決めず、親子で対話しながら作るとよい」「SNSやゲームなどをネタに親子で楽しみ方やよりよい使い方について日ごろから対話する」…つまり、対話を通した**親子の信頼関係の下**、子どもにとって**家庭が安心できる場**であることが重要だということになります。デジタルを怖がるのではなく上手に使いこなすために、冬休みに親子でゆっくり話し合ってみてください。



最後に、今年も残すところ1週間あまりとなりました。新しい年の作物を豊かに実らせ、家族が元気で暮らせるように守ってくれる「年神さま」を迎える準備をされることと思います。家中の大掃除をしたり、お正月飾りやおせち料理、鏡餅の準備をしたりと、年末年始は、日本の伝統文化をご家庭で学ぶよい機会となります。これらは学校ではできない学びですので、ぜひお子さんと共に日本文化に親しんでいただければ幸いです。

～保護者・地域の皆様、今年も大変お世話になりました。どうぞよいお年をお迎えください～

